

大阪錦画新話

東京南傳馬町

とたろ味岡三郎方

泊つて居るころ

舞雀村の真士郎が

息子と人の力装

田舎で洒落

半学を好むそのさごと

がたふ當つてお巡査りよふ見付らと引張られてさる處は

送らまゝふんとたれけ物敷奇と笑われ一上ぎ柄木の

豊吉といふ者の息子今年三十五なる男が若の時のら女姿

来る旅役者ふあち年當身ものを入きてあつこちあ鳴

見やうや布子まで脱て仕やう高賣も行つらうらサ

髪結をの評判もいふと高の額を縛うててこそよと

ふさふさ実面見上たなるけもの懸座様を構をいふ百認

とくらの遺式の常ふさふさあ阿らるるあれとらる咄ら報知

六頁九号



サトラ

小傳馬町
舞雀村

阿口又丸

